

# 産業用ドローン操縦者スクールを開設 テックササキなど

2017年12月26日 1:31 [有料会員限定]

航空機組み立て2社がドローン（小型無人機）操縦者の育成事業に乗り出した。共同で新会社を設立し、このほど一般向けのスクールを開校した。今後拡大が見込まれる測量や物流など産業向けのニーズを取り込む。自社の操縦者も養成し、橋梁などの公共インフラの点検事業への参入も視野に入れるという。

「カメラで位置を確認する時以外は、必ず目視で操縦してください」。22日、テックササキ（名古屋市）の本社工場で開かれた操縦体験会。指導員の指示に従い、参加者が目標に従いドローンを動かす。参加した建設コンサルタント会社の社員は「測量にドローンの導入が進んだ際に、操縦できれば受注で有利になる」と話す。

操縦体験会を開いたのは「JUAVAC（ジュアバック） ドローンエキスパートアカデミー 名古屋校」。テックササキが同業のエアロ（愛知県弥富市）と共同出資で設立し、自社工場のスペースを活用して開校した。愛知県内では最大級という300平方メートルの練習場を備える。来年1月の講座スタートに向けて体験会を重ね、すでに行政関係者など約70人が参加したという。

同校は国土交通省が認定するドローン講習団体「日本UAV利用促進協議会」（東京）が日本大学工学部と開発したカリキュラムを使用する。指導員も専用のカリキュラムで学んだエアロの出身者が務める。

県内には他にも認定スクールがあるが、同校は基本コースのほかに、橋梁の非破壊検査と測量に特化した2つの産業用の専門コースを設けているのが特徴。料金は午前9時～午後5時ごろまでのカリキュラムを4日間受講する基本コースで25万円（税別）。2020年ごろまでに年間2400人の参加者を集め、6億円の売上高を目指す。

テックササキの17年3月期の売上高は108億円でうち4割強が航空宇宙だ。航空機産業は成長が見込まれるが、国産ジェット旅客機「MRJ」の納入延期など受注に波がある。「航空機製造の安全管理手法はスクール事業にも生きる」（大西清幸専務）と判断し、育成事業に参入した。

同社は航空宇宙のほか、工場の天井クレーンやエアーコンプレッサーのメンテナンスも手掛ける。これらのノウハウは公共インフラの点検にもいかせる。このため自社のドローン操縦者を育成し、点検事業への進出も見据えている。鉄道や高速道路関連の受注を狙うという。

（広瀬洋平）



広さ300平方メートルの操縦練習場を備える（名古屋市熱田区のテックササキ）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

**NIKKEI** No reproduction without permission.